長崎県高校生･大学生環境会議のとりくみ

中村修*･門崎克典**･松田香穂里***･西浦あさみ****

Efforts of the Nagasaki Prefecture High-School/College Students' Environmental Conference

Osamu NAKAMURA,Katsunori KADOSAKI, Kaori MATSUDA, Asami NISHIURA

Abstract

In 2011 the second Nagasaki Prefecture High-School/College Students' Environmental Conference met. This year's conference met over two days. On the first day, participants toured businesses. The second day featured the presentation of each school' s report and discussions. The results of a survey of participants showed that many felt satisfied with the event' s activities including the tour of businesses and the report meetings.

In addition, university students prepared these activities, and by having the university students prepare materials all the way through to the stage of reports the conference improved the students' practical capabilities. Furthermore, this event also serves as an opportunity to deepen high-school students' understanding of the Faculty of Environmental Studies.

Key Words: High School Students, University Students, Conferences on the Environment

1. はじめに

本報告では、2011年8月17日、18日に開催した、第2回長崎県高校生・大学生環境会議について紹介する。なお､詳細は報告書としてとりまとめているので、本報告はその概要版である。

この会議は、長崎県内の高校生や大学生の環境対策活動に対する意識を高め､実践力を育成すること、高校生に大学生の活動を体験させ、大学の具体的な教育活動を知らせること、環境対策活動を推進する県内の高校生・大学生・教職員・行政機関同士の連携を強め、将来の環境対策活動推進につなげることを目的としており、2010年に続き2回目の開催である。

このような趣旨のため大学生・高校生の意見や活動を尊重し、高校教員、大学教員は支援にまわることとなっている。また、長崎大学環境科学部は学生の地域活動を推奨し支援することを掲げており、本会議は環境科学部の後援によって開催されている。実際、大学生はこのような会議を準備、主催、報告および報告書の作成まですることで実践的な力を身につける場となっている。

さらには、このような会議をおこなうことで、高校生に対して長崎大学環境科学部への関心や理解を深めることにつながることが期待される。

なお、報告書としてのとりまとめは大学生・大学院生がおこなった。表現としては不十分な点もあるが、生の声を紹介するため、できるだけそのまま掲載している。

2. 取り組みの経緯

2011年6月に高校生と大学生の有志、高校教員、大学教員による会議の準備委員会を立ち上げた。それから5度にわたる準備委員会での議論を経て、本会議の開催に至った。

2010年は1日のみの開催であったが、2011年は、企業の環境対策活動を学ぶため2日間のプログラムでおこなった。1日目は長崎日本大学高等学校を会場とし、有田工業株式会社、西日本高速道路株式会

*長崎大学大学院水産・環境科学総合研究科
**長崎県立長崎工業高等学校
***株式会社富士通
****長崎大学大学院水産・環境科学総合研究科
博士前期課程　院生

（受理年月日　2012年5月1日）

社長崎高速道路事務所、長崎県大村湾南部浄化センター、長工醤油味噌協同組合に協力をいただき、各事業所の見学をおこなった。

２日目は長崎大学環境科学部を会場とし、各学校・団体の活動発表会、意見交流会をおこなった（表1）。

表1　環境会議のプログラム

第１日　８月17日

9:30～10:00	受付［長崎日本大学高等学校視聴覚室（3号館２階）］
10:00～10:15	開会行事
10:15～12:00	移動、合同事業見学① ［有田工業株式会社、西日本高速道路株式会社 長崎高速道路事務所、長崎県大村湾南部浄化センター］
12:00～13:00	昼食（学食利用）・休憩
13:00～15:00	移動、合同事業見学② ［長工醤油味噌共同組合大村工場］
15:00～16:00	合同意見交換会 「事業所見学報告会」・「エコマップづくり」
16:00～16:10	閉会行事

第２日　８月18日

9:30～10:00	受付［長崎大学環境科学部１階141教室入口］
10:00～10:10	開会行事
10:10～11:40	①参加者紹介 ②高校生による活動紹介（長崎県立長崎工業高等学校【田川卓朗】、長崎県立国見高等学校【環境づくり事務局】） ③大学生による活動紹介（ISOの家、ぺんぎんの町、エコマジック、チャリ再生法研究会、っじゃすみん、EMS学生委員会）
11:50～13:20	昼食（お弁当交流会）・休憩
13:30～15:00	高校生・大学生意見交換会（官民学合同意見交換会） 「環境新聞づくり」
15:15～15:30	閉会行事、記念撮影

2.1. １日目のプログラム

2.1.1. 事業所見学会

午前中は、有田工業株式会社、西日本高速道路株式会社長崎高速道路事務所、長崎県大村湾南部浄化センターを見学した。

午後は長工醤油味噌共同組合大村工場を見学した（図１～２）。

図1　チョーコー醤油工場の見学の様子

図2　大村湾南部浄化センターの見学の様子

2.1.2. エコマップづくり

午後は、事業所見学の報告会とエコマップづくりをおこなった（図3）。

図3 エコマップづくりの様子

2.2. 2日目のプログラム

2.2.1. 報告会

参加者紹介の後、高校生による活動紹介（長崎県立長崎工業高等学校、長崎県立国見高等学校）をおこなった。

そのあと、大学生による活動紹介（ISOの家、ぺんぎんの町、エコマジック、チャリ再生法研究会、っじゃすみん、EMS学生委員会）があった（図4～6）。

図4　長崎県立国見高等学校の発表

図5　っじゃすみんの発表

図6　エコマジックの発表

2.2.2. 弁当交流会

2日目の昼食は、参加者一人一人が地産地消をテーマに一品ずつ料理をつくり、バイキング形式で食べた。高校生や大学生と交流を深めるために事務局が席を割り振って、普段接する機会の少ない人たちと交流しながらの食事とした。

昨年の会議に引き続き、参加者が料理を作ってきた。肉じゃがやグラタン、パスタなど、中にはドーナッツを手作りした高校生もいた。

食べる際、6グループに分かれて、高校生、大学生がバラバラに座って交流した。あるグループでは、環境についての話題だけでなく、大学生活や受験や進路についてなど話題が広がった（図7～8）。

図7 弁当交流会の様子(1)

図8 弁当交流会の様子(2)

2.2.3. 環境新聞作成

班に分かれて個別の課題を元に「環境新聞」を作成した（図 9 ～ 11）。

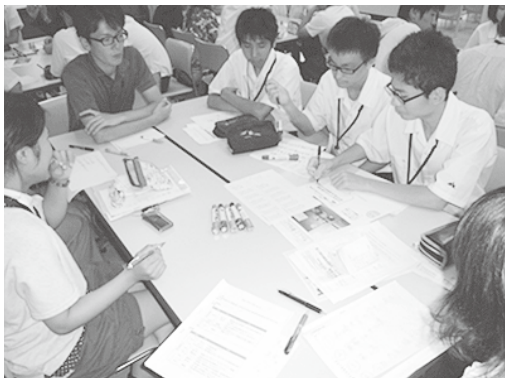

図9　環境新聞作成の様子(1)

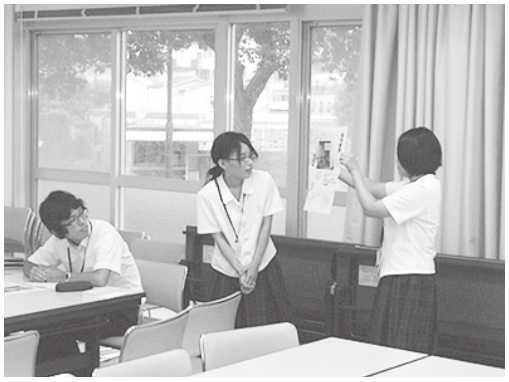

図10　環境新聞作成の様子(2)

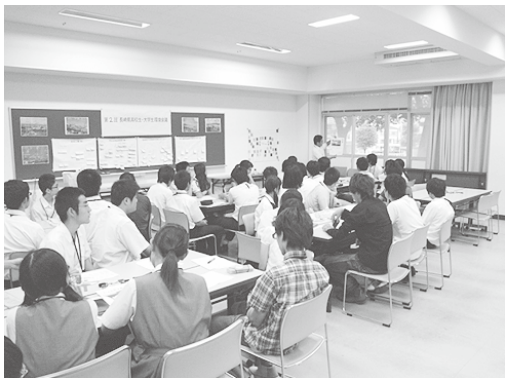

図11　環境新聞作成の様子(3)

2.3. 総参加者数

1 日目は高校生 20 名、大学生 12 名、教職員 1 名、一般参加者 1 名の計 34 名、2 日目は高校生 25 名、大学生 11 名、教職員 2 名の計 38 名の参加があった。

3. 参加者アンケート結果

参加者に対してアンケート調査を実施した。

1 日目のアンケートでは、「企業見学について満足できたか」、「エコマップの作成は有意義だったか」、「エコマップ作成を通して他校の学生と交流できたか」、「エコマップを作成することで将来住みたい街を考えることができたか」、という質問について、それぞれ 5 段階評価で回答する形式を取った。また、「企業見学について満足できたか」、「エコマップの作成は有意義だったか」、についてはその理由を自由記述欄にて書けるようにした。

2 日目のアンケートでは、「活動報告は満足できたか」、「お弁当交流会は満足できたか」、「お弁当交流会を通して他校の学生と交流できたか」、「環境新聞の作業の流れはスムーズだったか」、「今回の会議の内容を今後に生かしていけると思うか」という質問について、1 日目と同じくそれぞれ 5 段階評価で回答する形式を取った。そして「今回の会議の内容を今後に生かしていけると思うか」についてはその理由と、「全体の感想」「また環境会議に参加するとしたら、次はどのようなことがしたいか」ということを自由記述できるようにした。

なお紙面の都合上、2 日目の報告会と弁当交流会のアンケート結果のみ紹介する。なお、ここでの「満足度」は 5 段階評価の「とても満足」「満足」に印をつけた人の割合（単位 %）である。

3.1 活動発表について

参加したほとんどすべての学生が発表にも参加したこともあり、満足度は高かった。

活動発表の満足度は、全体で 79%、高校生では 72%、大学生で 73% であった（図 12 ～ 13）。高校生、大学生の環境対策活動について知ることができるこの場は参加者にも好評であったといえる。

大学生のサークル活動でも、他のサークルの活動を知る機会は少なく、この会議で相互に理解を深めている状況である。

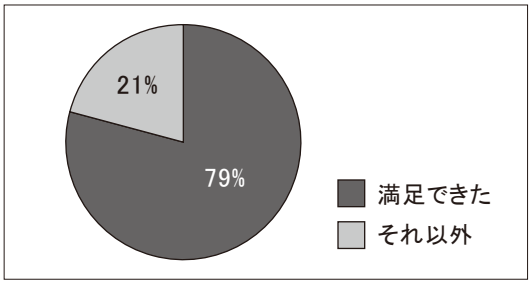

図12　活動発表の満足度

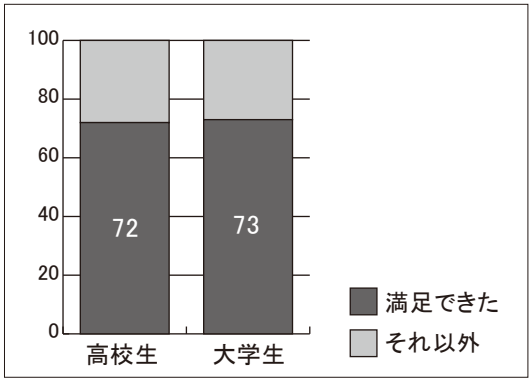

図13　活動発表の満足度(高校生・大学生別)

3.2. 弁当交流会について

さまざまな会議でも、昼食時間は休憩時間として個別ばらばらに食事をとる場合が多い。

本会議では、「昼食時間にも交流を」というねらいで、各自弁当を持参し、それをみんなで食べるというスタイルで実施した。1回目の会議では「地産地消」をテーマに弁当づくりを提案し、もちよった。

弁当交流会の満足度は約68%であり（図14)、高校生の満足度は60%、大学生の満足度は約73%であった（図15)。

また、「弁当交流会を通して、他校の学生と交流できたか」という質問に「とてもできた」と答えたのは全体の47%で、高校生では32%、大学生で73%であった。

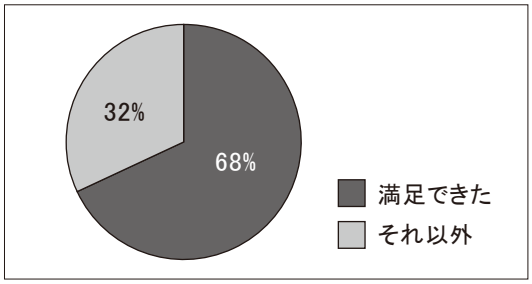

図14　弁当交流会の満足度

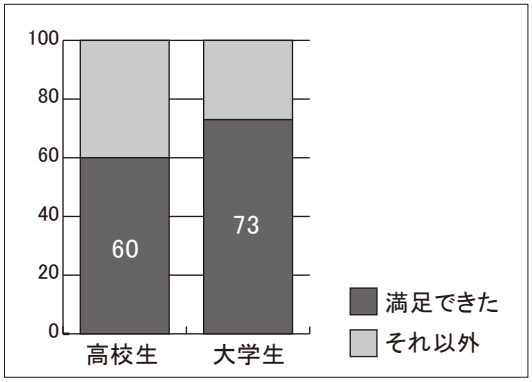

図15　弁当交流会の満足度(高校生・大学生別)

3.3.「今後に生かせるか」

「今回の会議の内容を今後生かしていけると思うか」という質問に対し「思う」と回答したのは、全体の約68%で（図16)、高校生は72%、大学生は約55%であった（図17)。

この差は、本会議の最後に行った「環境新聞」の企画が高校生向けに偏っていたことが原因だと考えられる。次回は高校生も大学生もともに取り組めるようなプロジェクトを考える必要がある。

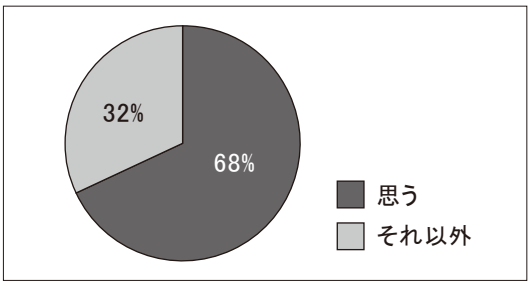

図16　今後に生かせると思うか

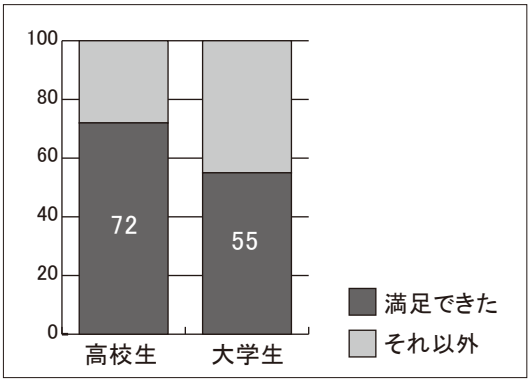

図17　今後に生かせると思うか(高校生・大学生別)

4. 参加者の感想

つぎに、自由回答欄の記述を紹介する。

・企業見学会について

「普段見られない部分が見られてよかった」との回答が目立った。「貴重な体験ができた」「企業の環境対策活動を知ることができた」との記述もあった。

・エコマップ作成について

「大学生と高校生の話す場ができた」といった、交流についての意見が多く見られた。高校生と大学生の交流はなかなか行われることではない。今回の機会を貴重なものとする高校生が多かったのは当然のことであろう。

・環境新聞について

「実行します宣言」についての記述が多く見られ

た。「環境新聞で『実行します宣言』をすることで、環境新聞のことを実際に行うことができる」、「今後やるべきことがわかり、実行すべきことが決まった」など、前向きな意見が多く、好評であった。

・全体を通しての感想

「普段交流できない人と関わり、刺激を受けた」というような意見が目立った。

この会議に参加することで、参加者が環境活動に対するモチベーションを上げることに繋がっていると考えられる。

一方で、「内容を絞ったほうが良かった」というような意見もあり、深い議論を希望するコメントもあった。

「また環境会議に参加するとしたら、次はどのようなことがしたいか」という質問には、フィールドワークや清掃活動など、体験型の活動を希望する意見が多くあった。さらに、「長崎県内の高校・大学が集うような大規模な会にしてほしい」というような、規模を拡大する要望もあった。

5. 実行委員の感想

・長崎工業高校 3 年　田川卓朗

環境会議を通して、企業が行っている環境対策や他校が行っている環境活動を知ることができました。

そして、長崎工業高校が行うべき活動を知ることができました。作成した環境新聞から、長崎工業高校が改善すべきことを行っていきたいと思います。

また、環境会議で得たことを私生活でも活かし、今後の環境活動を行っていきたいと思います。

・長崎大学環境科学部 2 年　東川裕美

今回、環境会議には２回目の参加でした。去年はまだ実行委員としてではなく参加者として参加をし、環境会議を楽しみました。そして、今年は実行委員として準備段階から参加をさせていただきました。意見交換会の内容を一から考えていくのが楽しく、いろいろと学ぶことが多かったです。本番は、去年よりも楽しい会議となったと思います。私は、たぶん参加者以上にこの環境会議を楽しんでいました。来年もこの環境会議に携わることができればいいなと思っています。

・長崎日本大学高等学校　教諭　古田明子

同じメンバーが２年目も集合した。このことが今回の環境会議の重要な意味ではなかったかと思う。扇の要であった門崎先生はもちろんのこと、大学生のはつらつとした頑張りがそれを実現したと思う。それぞれが日常を抱えながら、新しい事を成し遂げていくことはなかなか難しい事だと思うが、実現した２回目の会議。そのことを喜びたいと思う。

・長崎日本大学高等学校 2 年　北村 可恋

私は、長崎日本大学高等学校の生徒会でエコ委員長をしています。今年の夏に開催された、第２回高校生・大学生環境会議に初めて参加し、様々な事を学ぶ事ができました。

環境会議では、「地球温暖化」「水質汚濁」などの問題について考えるとともに、自分の地球環境に対する意識が高まったと思います。「今までの取り組みはどうだったのか。」「自分自身、環境に悪い行動をしてはいなかっただろうか。」というように、改めて自分の行動について、反省する事ができました。

環境会議に参加する事で、学校のエコ活動が大きく前進できたと思います。本当に良い体験をさせて頂きました。これからもエコ委員長として、環境への取り組みを活発化させていきたいと思います。ありがとうございました。

図18　環境新聞を手に取る実行委員

6. おわりに

本報告は環境科学部の学生・大学院生が編集・作成した「第２回高校生・大学生環境会議～広げようエコ友の輪～実施報告書」（環境会議実施報告書作成委員会）の概要版である。この報告書は、長崎県内のすべての高校、教育庁、環境省記者室などにも

配布されている。

また、会議は実行委員会が主催し、環境科学部、長崎県未来環境推進課、ＦＭ長崎など多くの後援によって開催されたことから、各方面からの注目も多く集めることとなった。本会議で報告された内容は、高校生、大学生が地道に学校や地域で活動していることばかりである。それゆえ、この会議の様子はNHK と新聞で紹介された。

参加した大学生は準備、報告、報告書の作成などを経験することで実践力を身につけていった。また、高校生も大学生と議論することで刺激を受け、環境活動への手法や考え方を身につけていったことが報告書からもうかがえる。

また、高校および高校生に対して長崎大学環境科学部の理解を深める機会にもなっている。

本会議は 2012 年も開催予定である。